



一般社団法人大和森林管理協会専務理事 伊藤 典明

鎮守の森。

この言葉を聞いて皆様は何を思い浮かべられるでしょうか。鬱蒼とした森が広がり、その奥にお社がある神社。木々が綺麗に整備され、刈り込まれた生垣が両脇にある参道と神社。いろんなことを連想されると思いますが、神社があるところには森があるとお感じになりませんか。

都会の神社では社殿だけという神社も珍しくありませんが、多くの神社では境内地に木があり、敷地の大部分が森や林になっているケースが多く見受けられます。

では、なぜ神社には森があるのでしょうか。神社神道では八百万の神と言ってあらゆるものに神様が宿ると考えています。特に自然環境は畏敬の念を持って信仰の対象となっていることが多く、その象徴である木々は神社と切っても切れない関係なのです。鎮守の森は神社に祀られている神様に対する畏敬や畏怖を深めるものであり、神域として私たちが普段いる日常の場所と神様に祈る特別な場所とを分ける、いわば境界線の役割も果たしています。

● 人工的に作られた檀原神宮の森

皆様は、檀原神宮の森が人工的に作られたものだとご存知でした

か。東京都にある明治神宮の森も人工的に作られた森ですが、檀原神宮の森は昭和十五年（一九四〇年）、皇紀二六〇〇年記念事業の一環として神域が拡大されたときに、全国からの献木も含めて七万六千百十八本もの木が植えられてできた森なのです。

檀原神宮周辺の方にお聞きすると「祖父が勤労奉仕で植樹をした」という声を聞くことができます。全国の崇敬者、そして周辺の住民たちによつて作られた、いわばみんなで作った森だと言えます。しかしながら、元々は丘陵地であつたり田んぼや野原が広がつていたりした場所に森を作つたわけですから、土壌の関係からうまく生育しない木があつたり、人が踏み固めてしまつて新芽が出なかつたり、台風や自然災害によつて樹種や樹齢の構成が当初の計画通りに進まなかつたりと、一見気持ちのいい森に見えていても様々な問題を抱えた森になっています。

このままでは森がどんどん弱つていくのではないか。いろんな人々の想いが詰まつた檀原神宮の森を百年、二百年続く森にした。久保田宮司様からそんなお話をお聞きして、私たち（一社）大和森林管理協会と、以前から檀原神宮の森の調査を進めておられた大阪芸術大学がタッグを組んで、様々な議論を行った末、「檀原神宮境内林整備に関する提言書」を令和四年九月二十六日に提出させていただきます、本格的に檀原神宮の森の整備活動をスタートさせました。

檀原神宮の「檀」の字にもあるように、古代はカシ類が生い茂つ

ていたという言い伝えや奈良県内各地にカシ類が多いことから、榎原神宮の森ではカシ類を郷土木と位置付け、植栽の中心に据えられてきました。提言書では、このカシを中心とした「神武天皇（御祭神）ゆかりの森」をいかに守り、後世に繋いでいくかをテーマに様々な提案をさせていただいています。

提言の骨子は境内を七つのエリアに分け、それぞれについての整備方針を書かせていただきました。例えば、本殿裏の森については人の手を入れずに人の立ち入りも禁止する、あるいは表参道から外拝殿、内拝殿のエリアについては安全性を優先した管理や人の往来が多いために踏み固められている状況を改善するため、樹木の周りを低木や柵で囲んで立ち入りできないようにするなど、エリアの特徴に合わせた整備方針を提案させていただきました。

提言書の最後には環境問題にも触れています。近年、生物多様性の保護が声高に叫ばれています。環境省では令和五年度より、法規制により保護された地域以外の、民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域（OECM）を、「自然共生サイト」として認定する制度を開始しています。奈良県からは大和森林管理協会が管理する、王寺町から上牧町にまたがる「陽楽の森」が唯一認定されたのですが、榎原神宮の森も生物多様性が守られた森として「自然共生サイト」にふさわしい森です。いずれは明治神宮の森と榎原神宮の森が環境省から認定を受けられるよう、しっかりと提言を現実のものにしていきたいと考えています。

● 榎原神宮の森を適切に管理する

令和五年度は、令和四年九月二十六日に提出した提言書に基づいた森林整備計画を、大阪芸術大学を中心に大和森林管理協会も一緒になって、榎原神宮の神職の方々などの現場のご意見も頂戴しながら取りまとめている最中です。計画がまとまれば、それに基づいた実際の整備に移っていきます。

大和森林管理協会は榎原神宮の森の日常管理も担当させていただいております。従来は管理者の記憶や紙による管理でしたが、地理情報システム（GIS）を用いて危険木管理や弱りつつある樹木の観察を行い、いつでもどこでもパソコンやタブレットを開けば情報が手にとるようになる体制を構築しています。さらに、私たち以外の方が管理業務に携わることになっていいように管理手順書や防虫薬剤散布の手順書も順次作成しています。

また、境内にある竹林整備も大和森林管理協会の大きな仕事の一つです。近年、内拝殿の北側にあった竹林がその面積を広げており、放置すれば建物付近まで竹が侵入する勢いでした。そこで令和四年度より本格的な竹林伐採を開始し、竹林の拡大防止に取り組んでいます。伐採した竹の一部は大阪芸術大学の学生たちが工作材料として加工し、夏に榎原神宮が開催している林間学園で子どもたちの工作の時間に、大学生たちが指導役になって竹を使った楽器などを製作してくれています。境内の竹を使うことで子どもたちにも榎原神宮の森に関心を持ってもらおうという取り組みの一環です。

● みんなでつくる 榊原神宮の森

榊原神宮の森が誕生してから八十年を越えました。

木々も大きくなり、一本を切って整備するだけでも大変な労力が必要となります。それを榊原神宮の敷地五十三万平方メートル（十六万坪）全体で森林のあり方を考え、整備していくわけですから相当な時間・労力・費用がかかります。しかしながら、今手を入れないと今後さらに整備は困難を極めると考えています。榊原神宮の森の整備に関わる人たちの共通認識は「皇紀二七〇〇年には一定の成果を出そう」というものです。今から十六年先。長いようで短い期間です。榊原神宮の森が誕生してから百年となる節目のこの年に、先人たちが植えた苗木から育ったこの森を、どうにか良い形にして次世代に繋いでいく。そんな大きなプロジェクトです。

多くの方のご尽力で作られた榊原神宮の森は御祭神様の森で



あると同時に、崇敬者や地域住民の「みんなの森」です。参拝された皆様方は拝殿で神様に手を合わせる前に、参道を通りながら榊原神宮の森を五感で感じ、心が浄化され真っ直ぐで明るく清らかなものになっていくのを感じておられる方も多いのではないのでしょうか。私もその一人です。

だからこそ、この森を百年、二百年続くものにしたい。

皆様にそう思っていていただき、本格的に始まった榊原神宮の森の整備活動に関心を持っていただければと思います、今回筆を取らせていただきました。

どうか、自分のお庭を美しくするのと同じお気持ちで、榊原神宮の森をさらに美しく、気持ちの良い森とする活動にご理解とご協力をお願いできますと嬉しく思います。

私たち大和森林管理協会は、「みんなの森」である榊原神宮の森を整備するお手伝いを、微力ながら日々続けて参ります

プロフィール 伊藤 典明（いとう のりあき）

昭和五十六年、奈良県生まれ。慶應義塾大学法学部卒。三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ系エネルギーコンサルティング会社、衆議院議員公設秘書を経て、現在、一般社団法人大和森林管理協会専務理事。代々続く社家に生まれ、現在は榊原神宮と同じ榊原市内に鎮座する鷲栖神社権禰宜も務める。

ようこそ、日本のはじまりへ。
榊原神宮

〒634-8550 奈良県榊原市久米町934
TEL/0744-22-3271 FAX/0744-24-7720



榊原神宮

検索

発行日／令和6年2月
編集・発行／榊原神宮庁
印刷／岡村印刷工業株式会社